

令和8年度（家庭基礎）シラバス

教 科	家 庭	科 目	家庭基礎		
単 位 数	2	学 年	1	類 型	共通
教 科 書	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)		副教材	家庭科ノート・調理実習ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会)	
学習目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を養う。				

授業計画

	学習内容	学習のねらい
1 学期	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 第3章 子どもとともに育つ 第4章 超高齢社会を生きる	・人の一生、家族・家庭について社会環境の変化や課題について理解し、生涯を見通して自分のライフスタイルを考察する。 ・乳幼児期の心身の発達と生活、子どもを取り巻く社会環境などについて理解し、子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか考察する。 ・高齢期の生活と福祉について理解し、家庭や地域及び社会の果たす役割について考察する。
2 学期	第6章 食生活をつくる 第8章 住生活をつくる 第7章 衣生活をつくる	・栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに、目的に応じた調理に必要な技能を身に付ける。 ・住居の機能や防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解するとともに、住居と地域社会との関わりについて考察する。 ・衣生活と健康について、健康で快適な衣生活に必要な知識や技能を理解するとともに、安全で健康や環境に配慮した被服について考察する。
3 学期	第9章 経済生活をつくる 第10章 持続可能な生活を営む	・消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性などについて理解し、適切な意思決定に基づいて行動できるようにする。 ・生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解し、安全で安心な生活と消費について考察し、工夫できるようにする。

評価の観点及び内容、評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	・定期考査 ・ワークシート
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・定期考査 ・ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	・ホームプロジェクト ・一日家事体験 ・振り返りシート